

メキシコ経済・自動車産業概観

— 相次ぐ日系企業の進出 —

2015年8月

在メキシコ日本国大使館

【利用上の注意】

○本資料は企業支援を目的とし、作成時点で把握し得る限りの正確な情報の掲載に努めておりますが、資料中の情報に基づく判断・行為によって発生した一切の損失・損害に対しては、責任を負いかねますので、ご了承ください。

1. 投資ラッシュ

2. 何故メキシコか？
3. 競争力の背景
4. リスク
5. 潜在力、さらなる成長
6. 日本との連携

相次ぐ日系企業の進出

- ✓ 2011年以降、日系自動車メーカー4社がメキシコへの生産投資を発表。
- ✓ 関連日系企業も相次いでメキシコへ投資し、日系企業のメキシコへの投資案件数※は190件以上に及ぶ投資ラッシュ。(自動車及び部品124件、鉄鋼16件、物流12件、機械15件他)
- ✓ 約6割がメキシコへの製造拠点初進出。アジアに加えてメキシコに拠点を置く事例多数。

注:メキシコへの最初の投資は1966年完成の日産クエルナバカ工場

※ 2011年～2015年に公表／報道された投資案件。

2011	発表時期			
	2011年6月	<u>マツダ</u> (グアナファト州)	14万台+4万台 (マツダ2、マツダ3)	<u>製造初進出</u> 2013年1月に能力増強を発表。
	2011年8月	<u>ホンダ</u> (グアナファト州)	20万台 (小型車、エンジン)	<u>本格進出</u> (組立工場から一貫生産工場へ)
2012	2012年1月	<u>日産</u> (アグアスカリエンテス州)	17.5万台 (小型車)	<u>能力増強</u> (第3工場)
	2012年11月	<u>トヨタ</u> (グアナファト州)	5万台 (小型車)	<u>生産委託</u> (組立工場から一貫生産工場へ)
2014	2014年6月	<u>日産・ダイムラー</u>	30万台 (小型車)	<u>能力増強</u> (合弁生産)
2015	2015年4月	<u>トヨタ</u> (グアナファト州)	20万台 (カローラ)	<u>トヨタ5年ぶりの新工場</u>

欧米系自動車メーカーの投資

- ✓ 欧米系自動車メーカーも競ってメキシコに投資。韓国も追随し、製造進出を決定。
- ✓ 外資メーカーの総投資額は2008-2015の8年間で約185億ドル(約2.3兆円)の規模。

発表時期	企業名	投資額	投資内容
2008年	2008年5月	フォード	30.0 億\$ ※改装投資(小型車生産)
2009年	2009年7月	VW	10.0 億\$ ※改装投資(新モデル車生産)
2010年	2010年2月	クライスラー	5.5 億\$ ※改装投資(小型車生産)
	2010年7月	日産	6.0 億\$ ※改装投資(新モデル車生産)
	2010年8月	GM	5.0 億\$ ※改装投資(小型車生産、エンジン生産)
	2010年9月	VW	5.5 億\$ ※新規投資(エンジン生産)
2011年	2011年6月	マツダ	5.0 億\$ ※新規投資(小型車生産)
	2011年8月	ホンダ	8.0 億\$ ※新規投資(小型車生産)
2012年	2012年1月	日産	20.0 億\$ ※新規投資(小型車生産)
	2012年4月	フォード	13.0 億\$ ※改装投資(中型車生産)
	2012年9月	アウディ(VW)	13.0 億\$ ※新規投資(SUV生産)
	2012年11月	トヨタ	— 億\$ ※新規投資(小型車生産)
2013年	2013年1月	マツダ	1.5 億\$ ※増強投資(小型車生産)
	2013年2月	日産(ジャトコ)	2.2 億\$ ※増強投資(無段変速トランスミッション)
	2013年5月	ホンダ	4.7 億\$ ※増強投資(無段変速トランスミッション)
	2013年6月	GM	6.9 億\$ ※増強投資(次世代トランスミッション)
	2013年8月	マツダ	1.2 億\$ ※増強投資(エンジン機械加工)
	2013年10月	クライスラー	12.5 億\$ ※増強投資(商用車新型車生産、エンジン生産増設)
	2013年11月	VW	1.2 億\$ ※増強投資(エンジン生産)
2014年	2014年6月	日産・ダイムラー	13.6 億\$ ※新規投資(小型高級車生産)
	2014年8月	KIA	10.0 億\$ ※新規投資(小型車生産)
2015年	2015年4月	トヨタ	10.0 億\$ ※新規投資(小型車生産)

1. 投資ラッシュ

2. 何故メキシコか？

3. 競争力の背景

4. リスク

5. 潜在力、さらなる成長

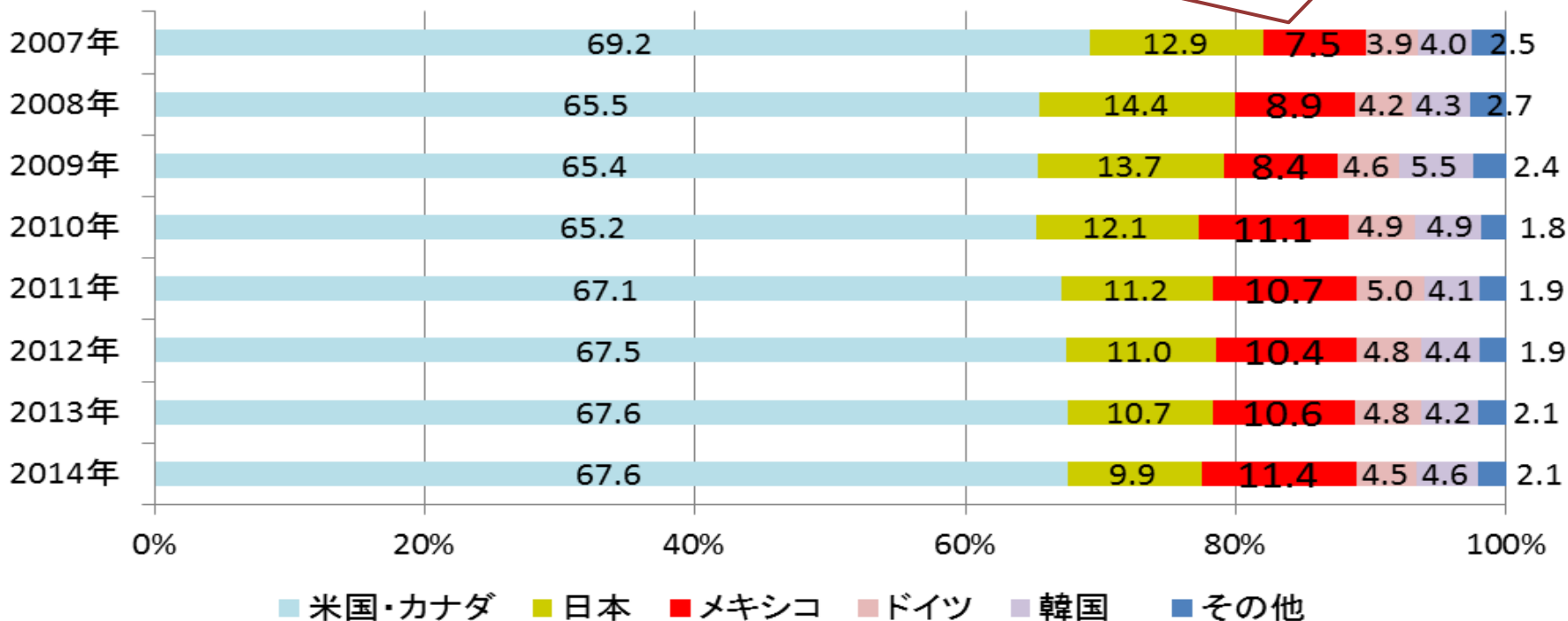
6. 日本との連携

米国向けの自動車生産拠点

- ✓ メキシコは、世界第2位の自動車市場・米国とNAFTA(米・加・墨)により市場統合。
- ✓ メキシコ自動車輸出の約7割※は米国向け。近年、米国市場でのメキシコ産自動車のシェア・競争力は着実に増加(2007年比で約5割拡大)。 ※出典: AMIA(メキシコ自動車工業会)
- ✓ 日系・欧米系共に、完成車メーカーはこの米国市場を睨んでメキシコへ投資。

米自動車市場の原産国別販売シェア(2007-2014)

2007年比でシェアが約5割拡大



中南米向けの自動車生産拠点(～2012年)

2. 何故メキシコか？

- ✓ 近年は中南米向けの輸出が増加していた (前年比: +11% (2012), +59% (2011), +98% (2010))
- ✓ 中南米の自動車市場は既にアジア市場に匹敵するまでに成長。完成車メーカーは中南米市場向けの生産基地としてもメキシコに注目して投資。

北米市場(米・加)
1449万台

中国市場
1931万台

ASEAN
市場に匹敵

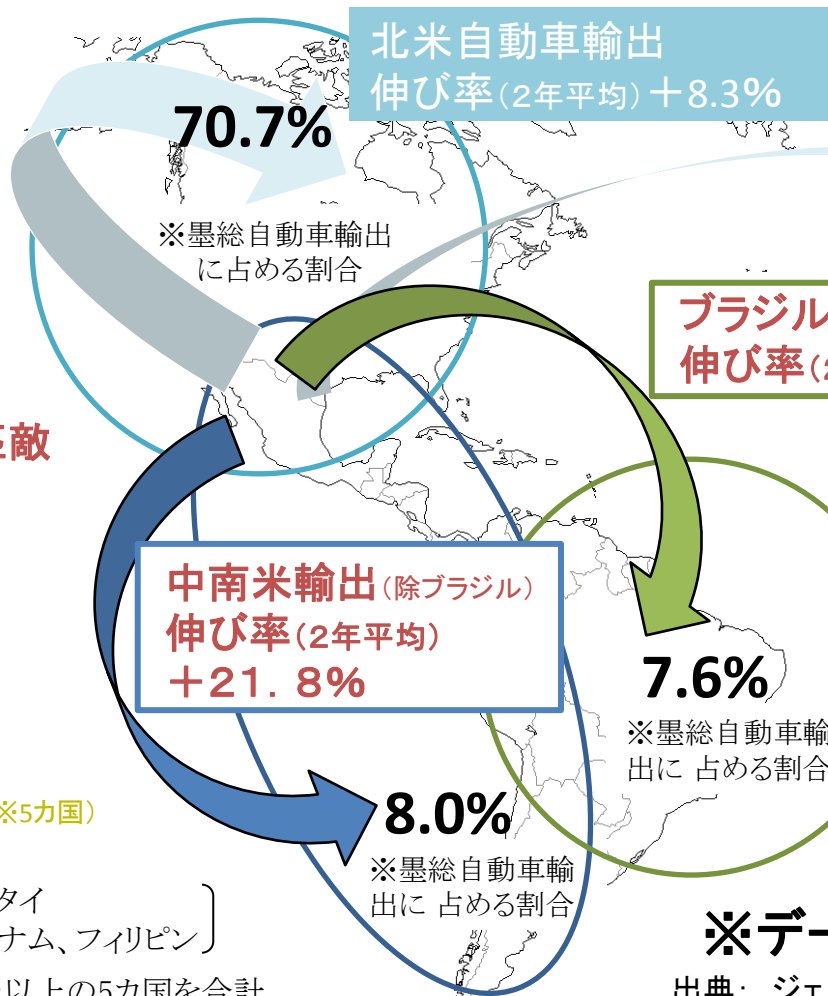
中南米市場(※除ブラジル)
267万台

(※メキシコ、アルゼンチン、
コロンビア、チリ、ペルー、
市場規模10万台以上の5カ国を合計)

ASEAN市場(※5カ国)
343万台

(※インドネシア、タイ
マレーシア、ベトナム、フィリピン)

市場規模10万台以上の5カ国を合計



9.0% ※墨総自動車輸出
に占める割合

VWを筆頭に
欧州へも輸出
(伸び率(2年平均)
+12.9%)

ブラジル市場
380万台

インド市場
359万台

※データは2012年

出典: ジェトロ、AMIA(メキシコ自動車工業会)

中南米向けの自動車生産拠点(2013年以降) 2. 何故メキシコか？

- ✓ しかし、直近2年間は中南米向けの輸出は二桁減少 (前年比: -18% (2014), -11% (2013))
- ✓ そのため、北米への輸出の割合は、80%を超え、依存度は増している。

北米市場(米・加)
1837万台

中国市場
2349万台

ASEAN
市場に匹敵

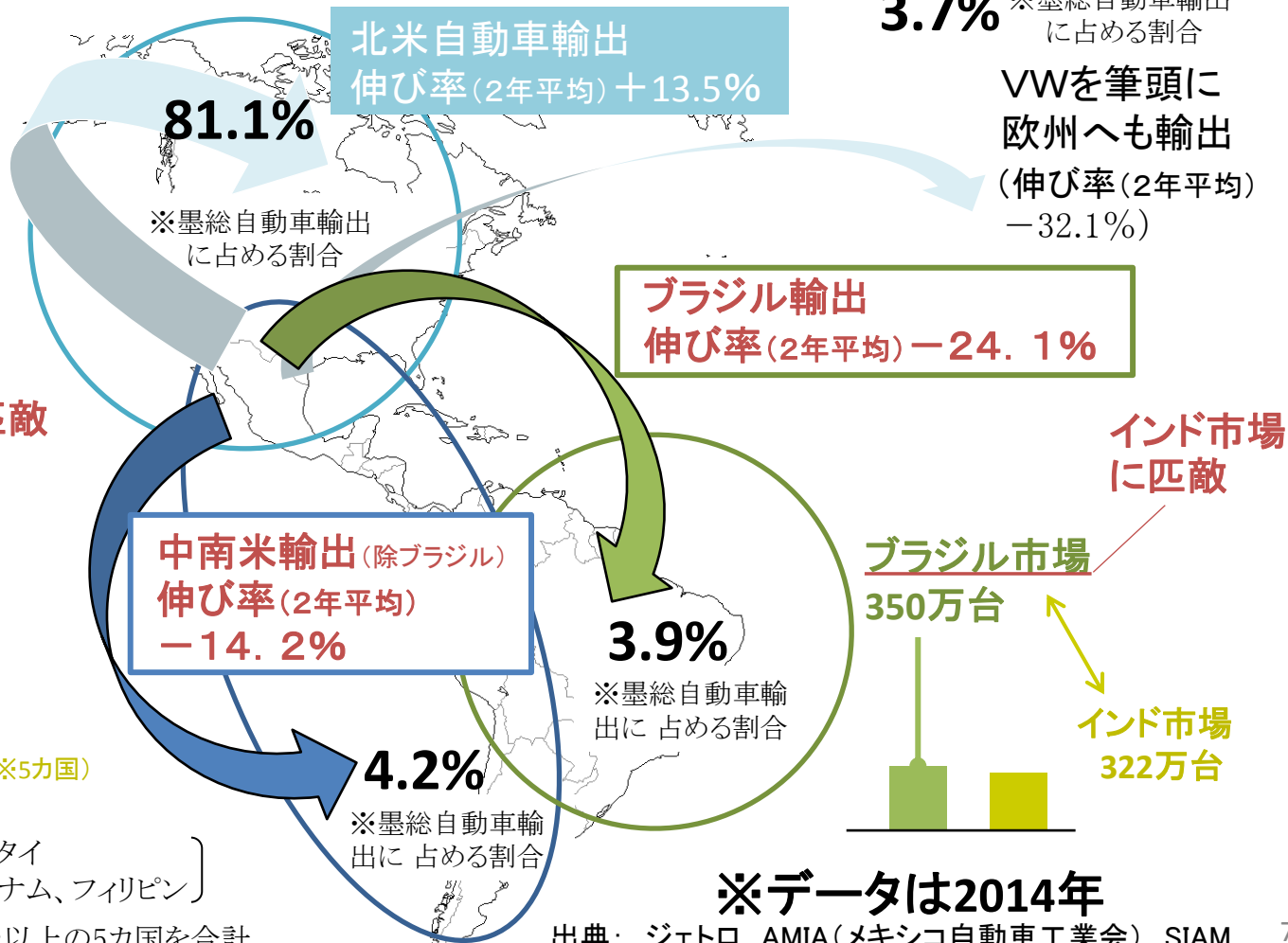
中南米市場(※除ブラジル)
267万台

(※メキシコ、アルゼンチン、
コロンビア、チリ、ペルー、
市場規模10万台以上の5カ国を合計)

ASEAN市場(※5カ国)
318万台

(※インドネシア、タイ
マレーシア、ベトナム、フィリピン)

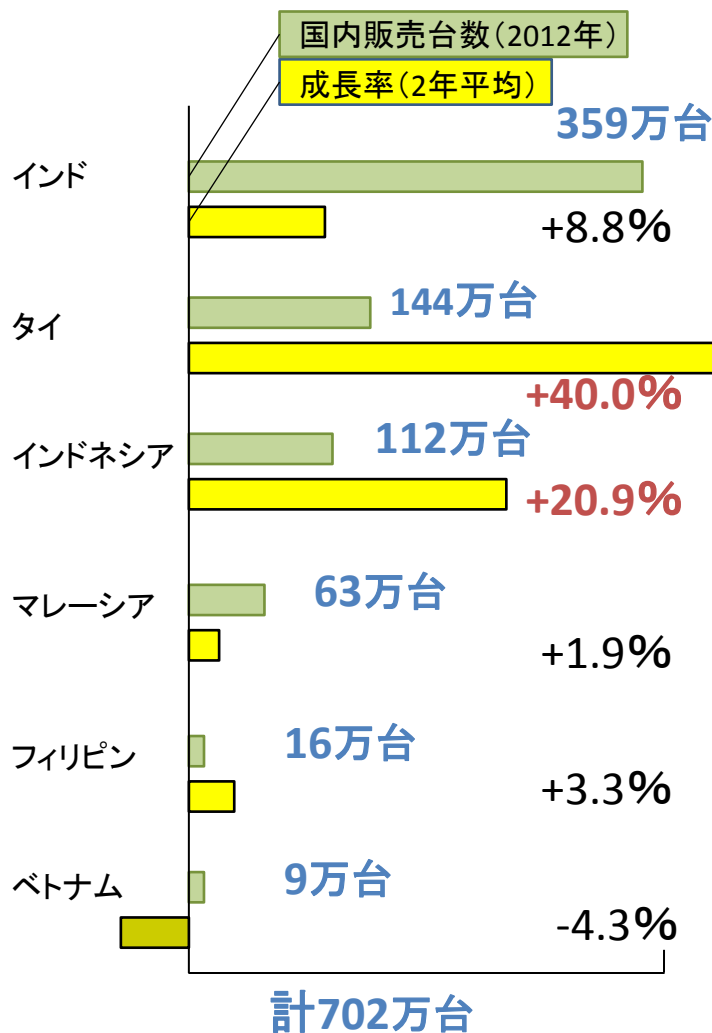
市場規模10万台以上の5カ国を合計



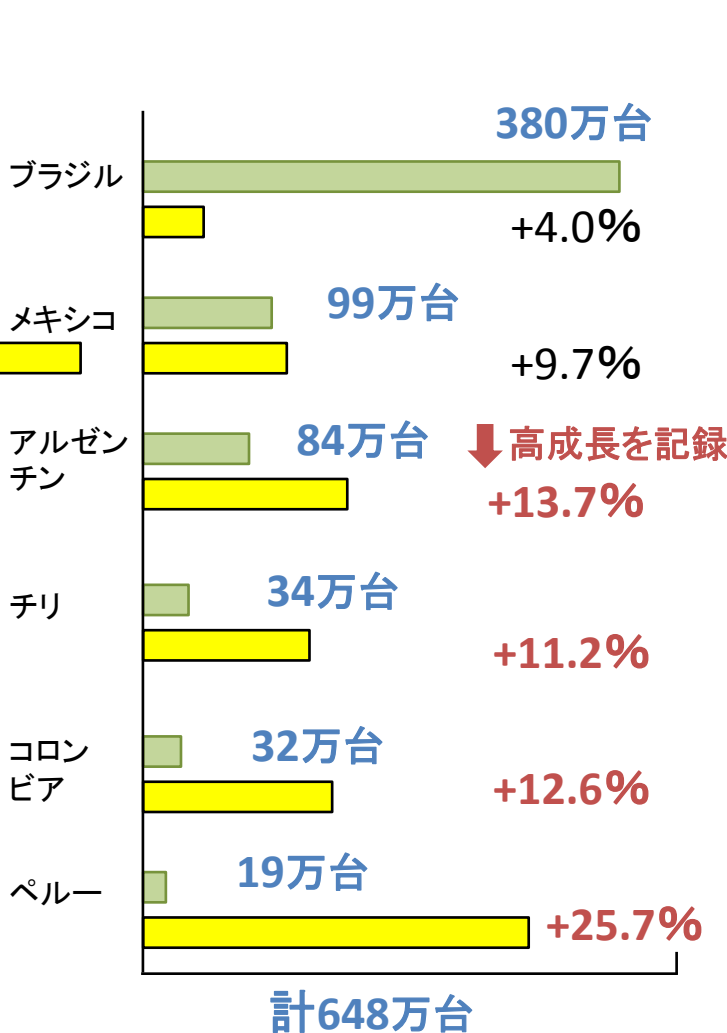
中南米自動車市場の拡大(~2012年)

- ✓ 加えて中南米自動車市場の成長率は近年アジア市場に匹敵し、ハイペースで拡大。
- ✓ メキシコは、これら成長する中南米各国への自動車輸出を増加させていた。

アジア各国市場の規模、成長率



中南米各国市場の規模、成長率



メキシコからの輸出

(2012年(上段),2011年(下段))

対ブラジル 17.8万台, **+30%**
13.7万台, **+83%**

メキシコから各国への
輸出が増加

対アルゼンチン 6.3万台, -11%
7.1万台, **+21%**

対チリ 2.5万台, -25%
3.3万台, **+61%**

対コロンビア 4.9万台, +5%
4.6万台, **+113%**

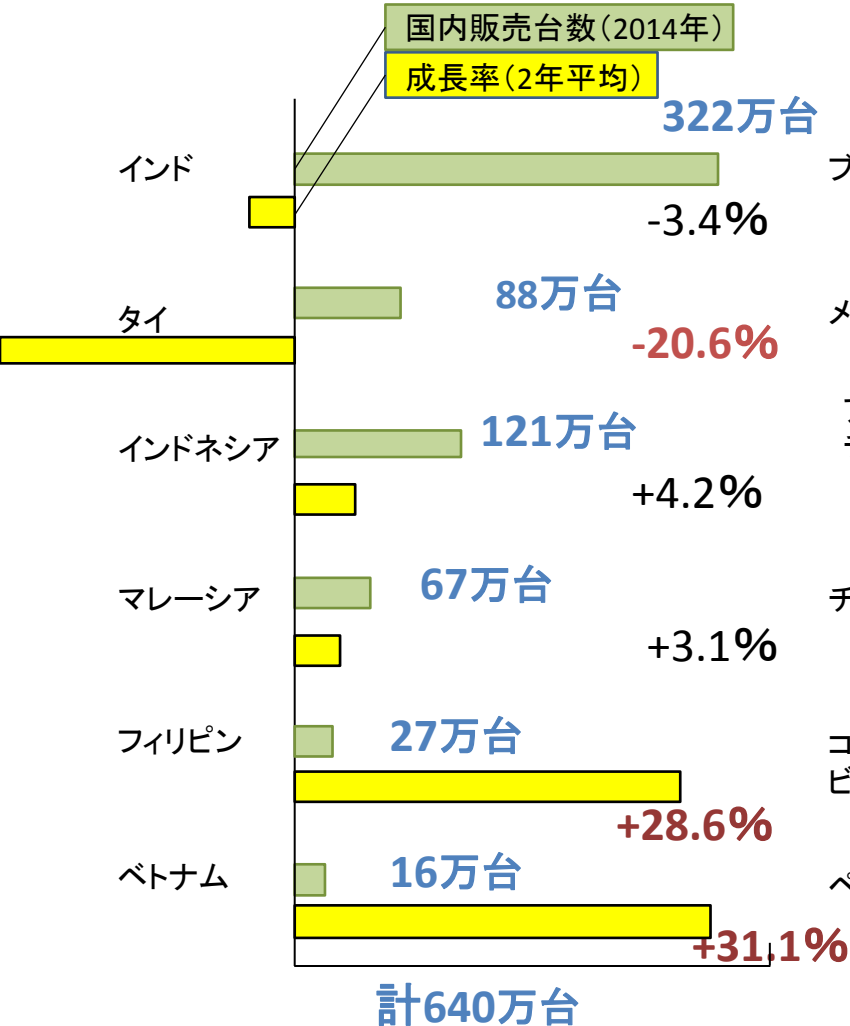
対ペルー 1.4万台, **+52%**
※

中南米自動車市場の足踏み(2013年以降)

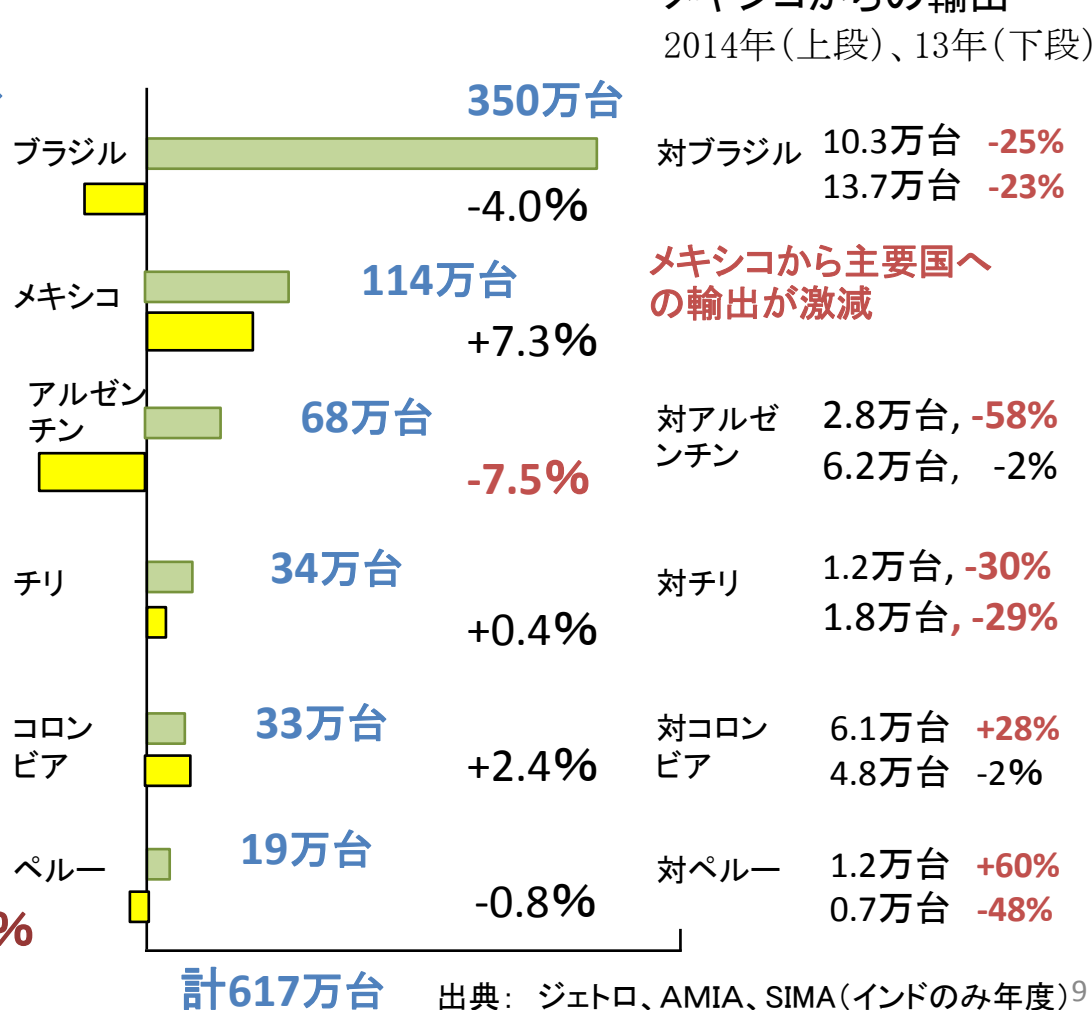
2. 何故メキシコか？

- ✓ 中南米自動車市場は依然アジア市場に匹敵するものの、両市場ともこの2年でマイナス成長。中南米は、ブラジル経済の不調もあり、自動車市場の成長は停滞。
- ✓ メキシコは、自動車協定改定の影響もあり、中南米各国への自動車輸出を減少させている。

アジア各国市場の規模、成長率



中南米各国市場の規模、成長率

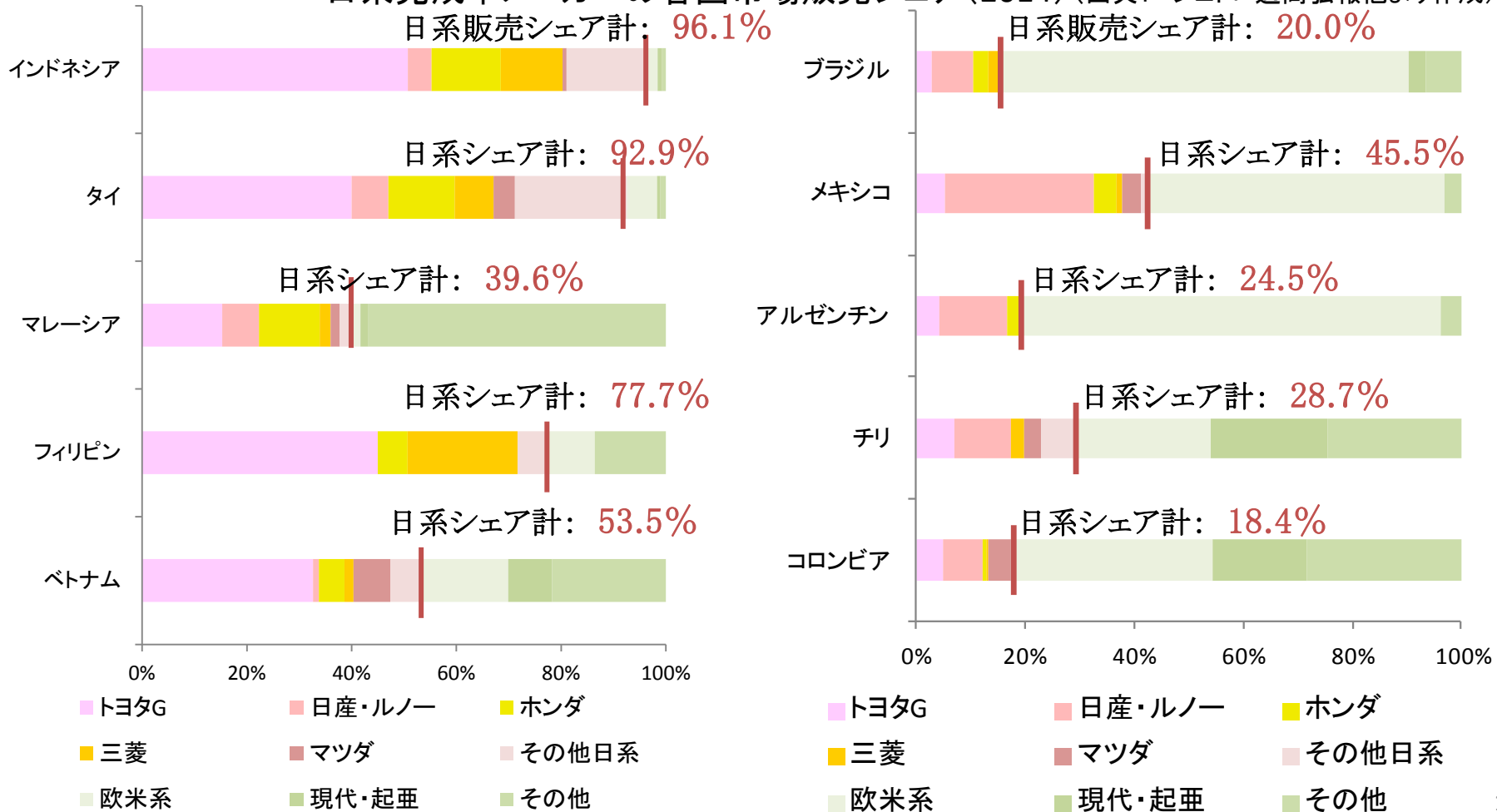


中南米市場でのシェア拡大に向けて

2. 何故メキシコか？

- ✓ 日系メーカーの中南米市場販売シェアは中低程度に止まる。（※他方、アジアでは高シェア。）
- ✓ 成長する中南米市場、世界第2位の米国市場、この両市場で競争力を高める観点から、日系メーカーはメキシコを投資先として選択。2011年と比較して、チリを除きシェアを伸ばしている。

日系完成車メーカーの各国市場販売シェア(2014) (出典: ジェトロ通商弘報他より作成)



自動車生産の世界的戦略拠点国

- ✓ メキシコの年間自動車生産台数は、2014年にブラジルを上回り、世界第7位。
(メキシコ340万台(世界7位)、ブラジル310万台(世界8位))
- ✓ 日系完成車メーカーの海外生産拠点としても、2017年にはインドネシアを上回り、世界第5位に浮上する見込み。

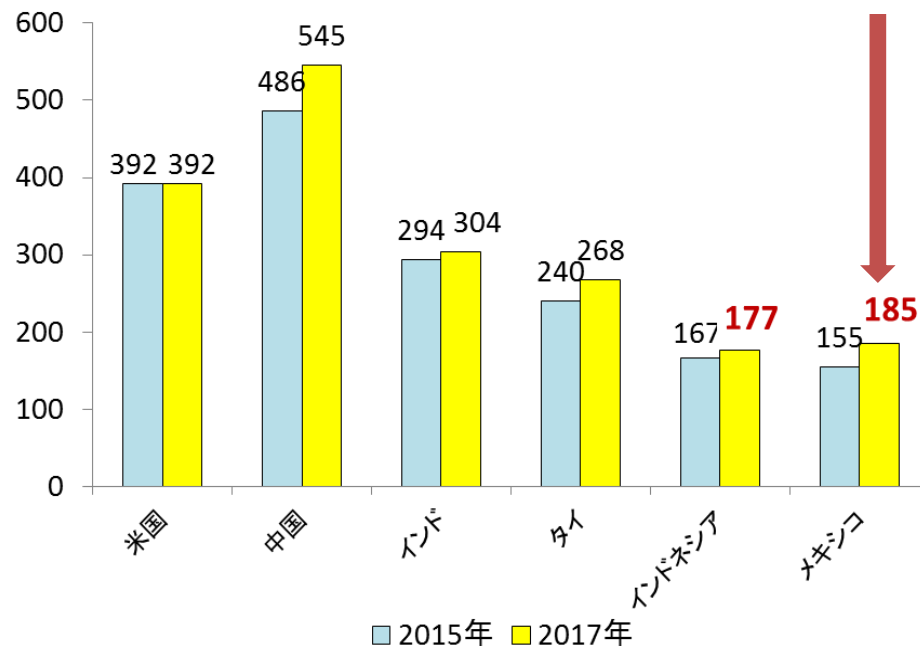
各国の自動車生産台数・順位
(2005-2013-2014)

2005年	(百万台)	2013年	(百万台)	2014年	(百万台)
1位	アメリカ	11.9	1位	中国	22.1
2位	日本	10.8	2位	アメリカ	11.1
3位	ドイツ	5.8	3位	日本	9.6
4位	中国	5.7	4位	ドイツ	5.7
5位	韓国	3.7	5位	韓国	4.5
6位	フランス	3.5	6位	インド	3.9
7位	スペイン	2.8	7位	ブラジル	3.7
8位	カナダ	2.7	8位	メキシコ	3.1
9位	ブラジル	2.5	9位	タイ	2.5
10位	イギリス	1.8	10位	カナダ	2.4
11位	メキシコ	1.7	11位	ロシア	2.2
12位	インド	1.6	12位	スペイン	2.2
13位	ロシア	1.4	13位	フランス	1.7
14位	タイ	1.1	14位	イギリス	1.6
15位	イタリア	1.0	15位	インドネシア	1.2

出典：国際自動車工業会(OICA)

日系完成車メーカーの海外生産能力
(2015-2017)

日系メーカーによるメキシコ生産能力は、
2017年にはインドネシアを上回る見込み。

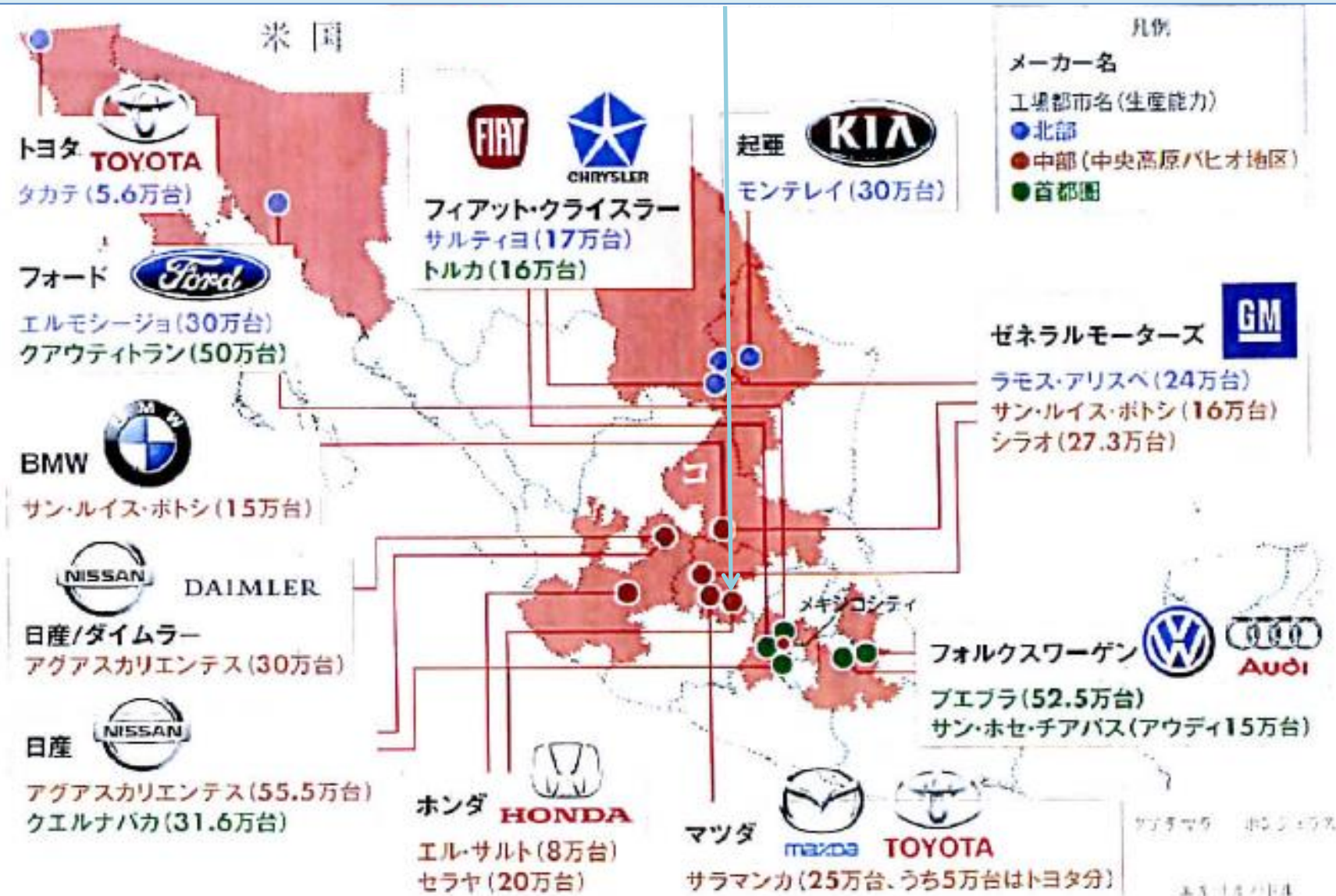


出典：FOURIN 世界自動車調査月報

メキシコの自動車生産拠点マップ

2. 何故メキシコか？

2015年4月15日、トヨタがグアナフアト州に新工場を建設する旨発表(投資額は約10億ドル)。2019年より、年間20万台の生産を開始する予定。



1. 投資ラッシュ

2. 何故メキシコか？

3. 競争力の背景

4. リスク

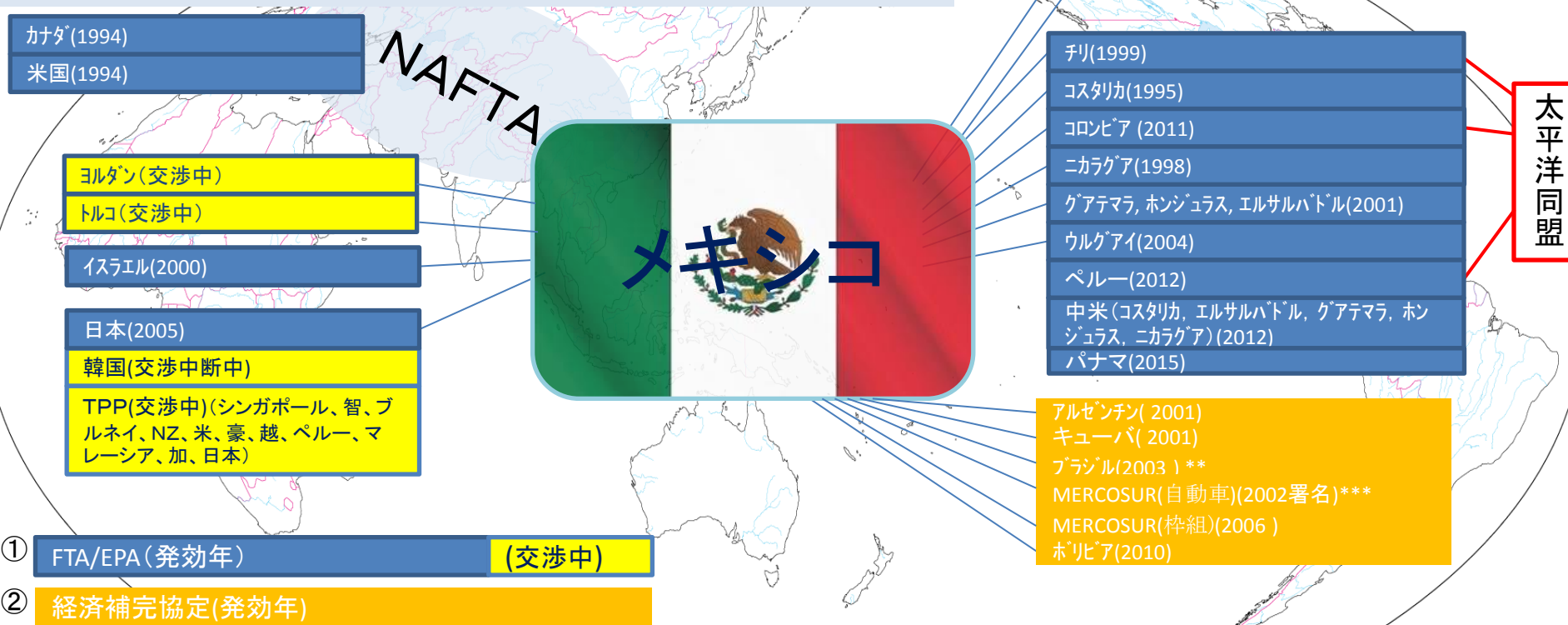
5. 潜在力、さらなる成長

6. 日本との連携

メキシコを巡る経済自由協定の現状

3. 競争力の背景

- メキシコは、45カ国との間で10本の自由貿易協定を締結。北米市場(NAFTA)だけでなく、広く欧州・南米市場にも、自由なアクセスを有する。



* 2015年6月、の墨EU首脳会議において、電子商取引、貿易円滑化等へ同協定の対象を拡大する方向で交渉を開始することで合意。

** 2015年5月のルセーフ伯大統領訪墨時に、特惠関税適用品目を現在の約800品目から6000品目以上に拡大し、サービス、電子商取引、知財章を追加するべく交渉開始に合意。

*** 墨MERCOSUR経済補完協定(自動車)の枠組みで、伯、亜との間で2003年に自動車及び自動車部品の関税撤廃が実現。他方、現在、貿易不均衡(墨による自動車輸出の好調)を背景に、伯、亜によって、墨からの輸出に対する無税枠(上限)が設けられている。

(参考) 墨伯自動車協定

- ✓ 墨伯自動車協定における無税輸出枠(上限)設定を2019年3月まで4年間延長。
- ✓ 割当の基準を2015年6月に経済省が公表(前回は基準不明)。算出の重点として45%が輸出へのシェア、35%が生産へのシェア、過去3年間での投資額が20%で考慮。その他、新規参入者への枠が存在。

ACE 55に基づくブラジルへの新車輸出の直接配分に基づく企業リスト(経過付)

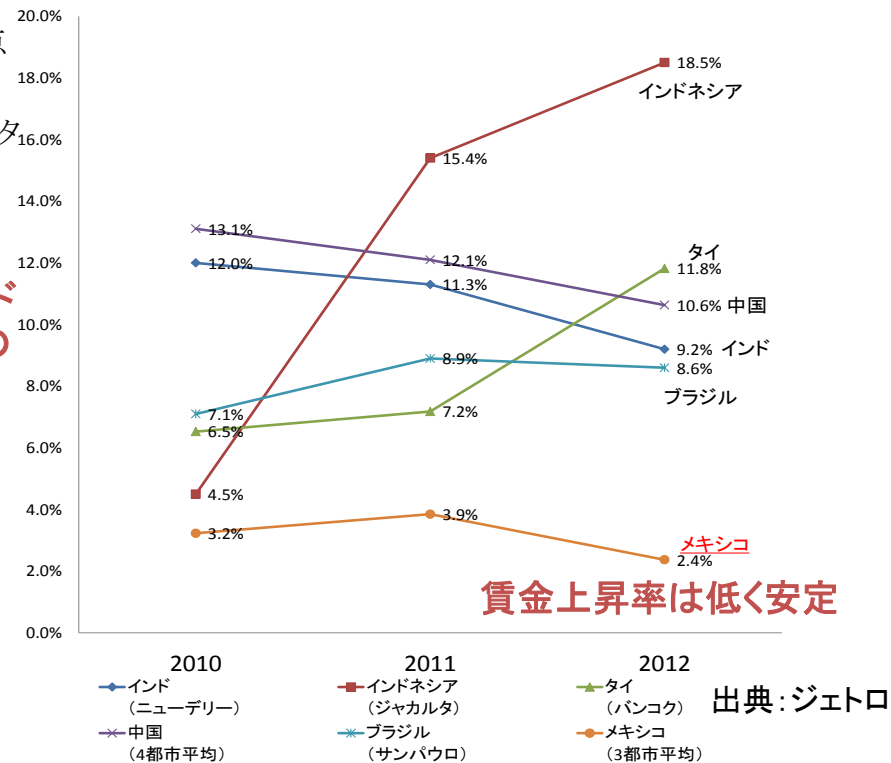
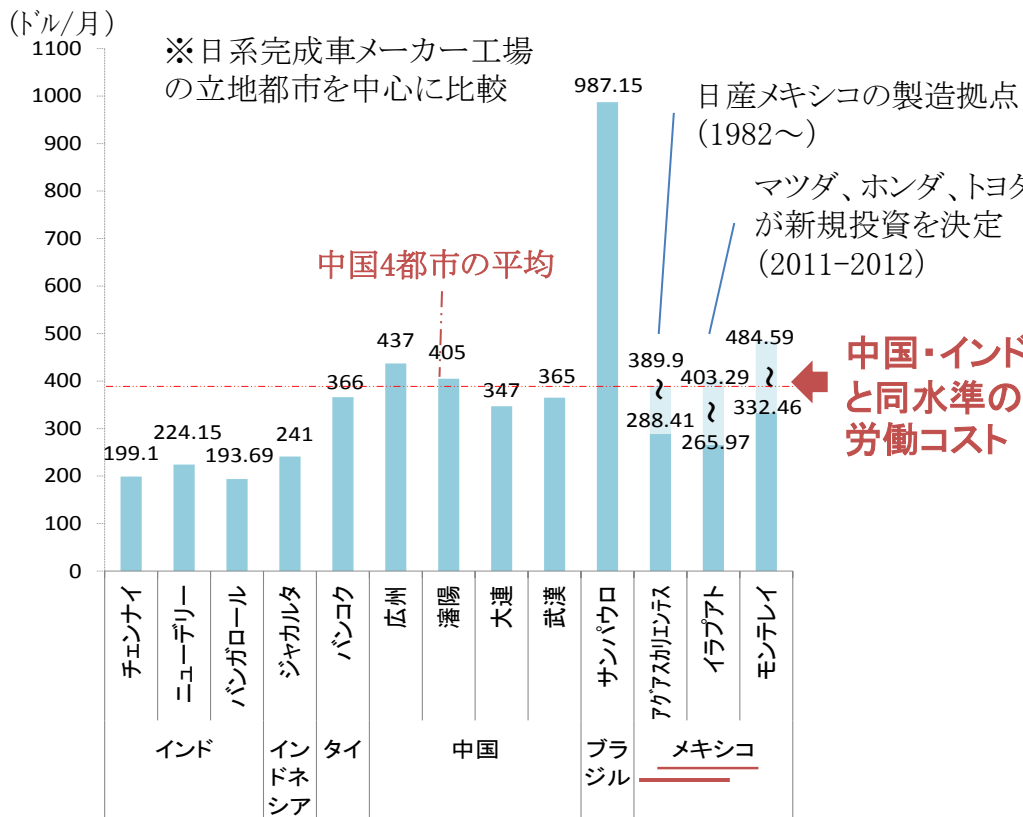
名前/社名	割当							残りの割当額 (USDル) D = (C) - (A+B)	有効期限
	第一回事前割当(USDル) 2015年4月7日 (A)	第二回事前割当 (USDル) 2015年5月27日 (B)	全体割当量の 1%	過去3年間の ブラジル への輸出額 のシェア (0.45)	過去3年間の 生産額の シェア (0.35)	過去3年間の 固定資 産への投 資額のシェ ア(0.20)	2015年7月1日 時点の割当計 算結果(USD ル)(C)		
メキシコBMW	300,000		1,092,000	0.12	0.02	0.04	1,819,371.23	1,519,371.23	2016年3月18 日まで
BRPメキシコ	100,000		1,092,000	0.24	0.10	0.10	2,885,910.07	2,785,910.07	2016年3月18 日まで
FCAメキシコ	50,000,000	9,100,000	1,092,000	16.77	23.21	13.37	113,488,378.00	54,388,378.00	2016年3月18 日まで
フォード	50,000,000	9,100,000	1,092,000	17.89	16.50	14.75	182,467,832.53	123,367,832.53	2016年3月18 日まで
メキシコGM	50,000,000	9,100,000	1,092,000	12.39	24.28	20.09	196,656,475.23	137,556,475.23	2016年3月18 日まで
メキシコフォルク スワーゲン	50,000,000	9,100,000	1,092,000	14.98	17.74	28.03	174,640,801.00	115,540,801.00	2016年3月18 日まで
メキシコ日産	50,000,000	9,100,000	1,092,000	27.48	15.07	14.46	223,069,497.15	163,969,497.15	2016年3月18 日まで
ノースポールス ター	100,000		1,092,000	0.03	0.09	0.51	2,700,397.93	2,600,397.93	2016年3月18 日まで
メキシコホンダ			1,092,000	10.00	2.97	8.64	79,654,315.46	70,554,315.46	2016年3月18 日まで
メキシコVPS			1,092,000	0.10	0.02	0.01	1,659,497.53	1,659,497.53	2016年3月18 日まで
合計	250,500,000.00	45,500,000.00	10,920,000.00				979,042,476.13	673,942,476.13	

安価・安定的な労働コスト

- ✓ 中国、ブラジル等の新興国で労働コストが上昇する中、安価かつ安定的なメキシコの労働コストは競争力を増している。
- ✓ 賃金水準は中国・インドと同程度であり、さらに賃金上昇率は他国と比べ低く安定。
- ✓ 自動車・家電等の製造業では労組は一般に穏健。大規模ストライキ等も発生していない。(伝統的産業の鉱業や教員等では特権及び強い政治力を持つ労組が存在。)

新興国各都市の労働コスト(賃金)比較(2013年)

新興国各都市の賃金上昇率の比較(2010年～2012年)



地理的優位性、整備されたインフラ網

- ✓ 大市場を抱える米国と陸路で接続し、さらに中南米とも近接し、かつ太平洋・大西洋のいずれにも港を持つ等の、地理的な優位性を有する。
- ✓ 高速道、鉄道、港湾等の国内インフラ網が整備され、進出企業は地理的優位性を十分に活用可能。

メキシコのインフラ網(例:高速道、港湾)



政治・経済の安定

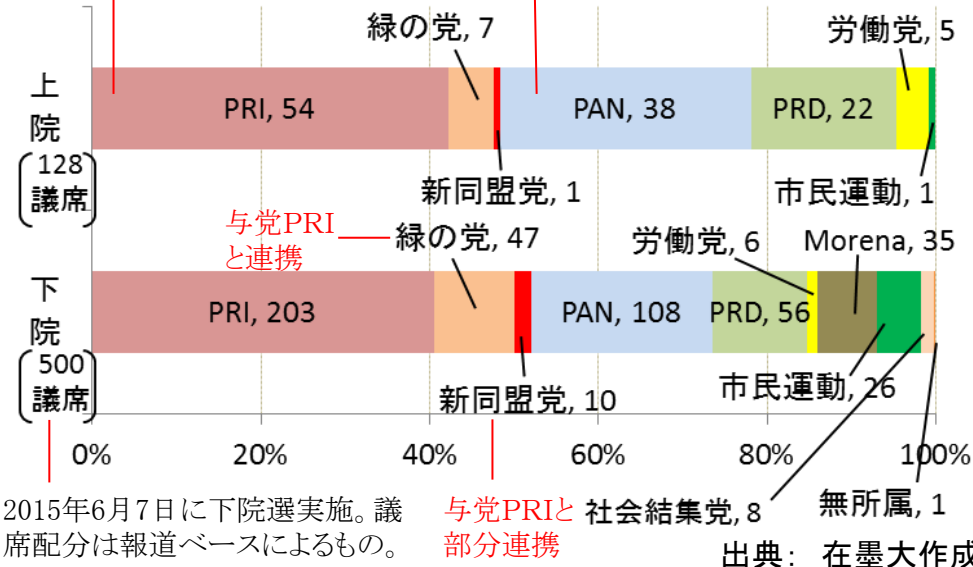
- ✓ マクロ経済の安定、自由貿易の推進、外国投資受入れの促進といった経済基本政策は与野党で概ね一致。
- ✓ 2006年に単年度財政収支均衡(赤字予算の原則禁止)を法制化。厳しい財政運営規律を自らに課し、マクロ経済の安定を実現。
(これら諸政策は、過去2度の経済危機(累積債務危機(1982)、通貨危機(1994))を踏まえたものであり、20年以上経済危機は起きていないなど安定を確保)

与野党の上院・下院議席数

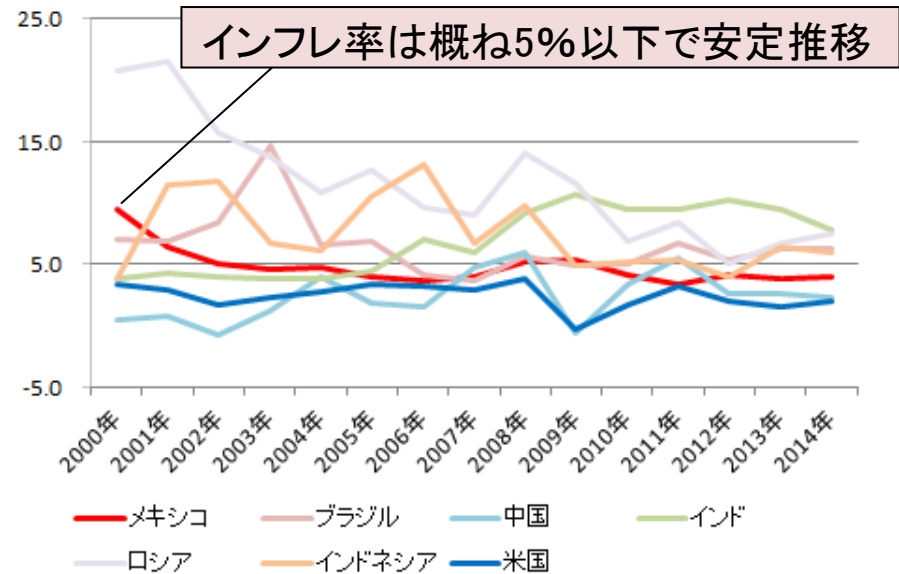
現政権発足直後に、政府及び与野党間で政策合意が実現 → 構造改革の実現

2012年大統領選挙で勝利し、12年ぶりに政権に復帰。上下院議会で第一党。

前政権与党で、2012年選挙で敗北。



各国のインフレ率推移

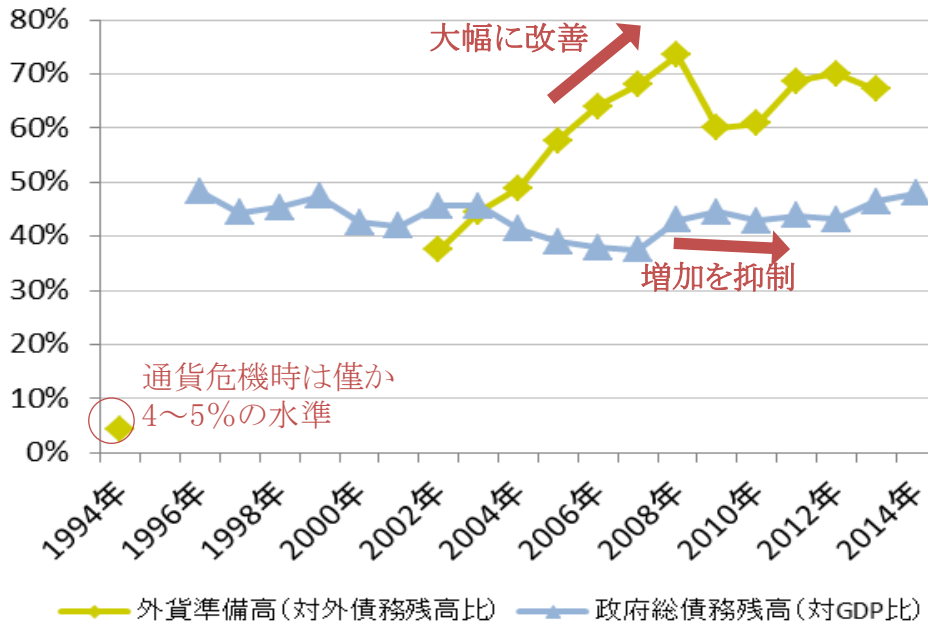


経済の安定

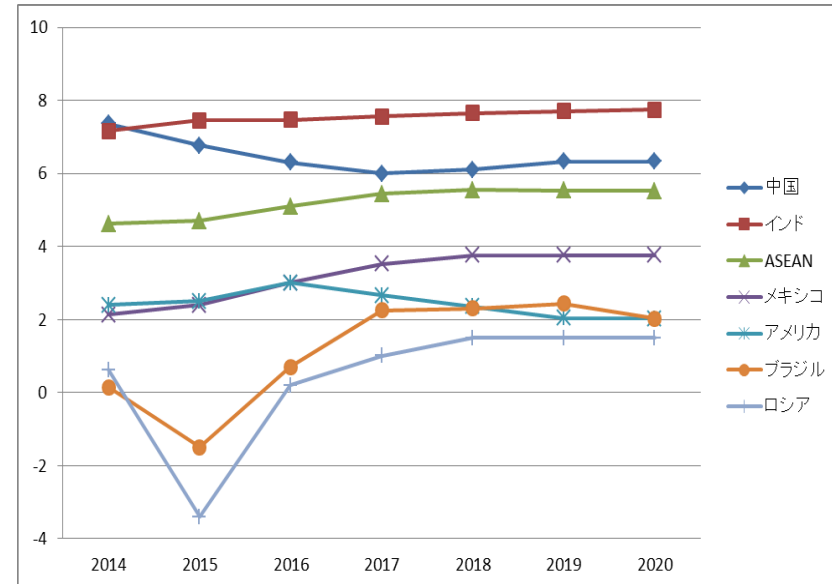
- ✓ 外貨準備高(対外債務残高比)が大幅に改善され、また政府総債務残高(対GDP比)の増加も抑制される等、通貨危機(1994年)以降、経済の安定化に向け、着実に成果が上げられている。
- ✓ ソブリン格付け※は信用格付け機関(Moody's)から投資適格(A3)を取得。〔※長期外貨
建て国債〕
- ✓ 産業の競争力、積極的な貿易政策、堅実な財政運営等から、メキシコ経済は底堅く、安定的に拡大する見通し。

外貨準備高(対外債務残高比)、政府総債務残高(対GDP比)の推移

〔実質GDP
成長率,%〕



米国及び各新興国・地域の
経済成長率見通し(IMF)



出典: IMF - World Economic Outlook Databases (2015.4) (2015年2016年のデータは、2015年7月の修正版を反映)、国連統計、ジェトロ

1. 投資ラッシュ
2. 何故メキシコか？
3. 競争力の背景


4. リスク

5. 潜在力、さらなる成長
6. 日本との連携

治安


カルデロン前政権の治安対策、司法改革

- ◆ カルデロン政権は、法治国家と安全を政権の主要5本柱の一つと位置づけた。
- ◆ 組織犯罪との闘い、警察組織浄化、治安対策への軍投入を重視。

- 
- ✓ 最も危険な容疑者37人を懸賞金付きで指定。その内、25人を逮捕・殺害。
 - ✓ 他方、同政権下5年11ヶ月で組織犯罪関連死者数は約5万8千人に上り、市民生活の深刻な危機が発生。また、組織犯罪の細分化による抗争激化。

ペニャ・ニエト政権の治安対策、司法改革

- ◆ 犯罪組織との対決より、犯罪の防止（インテリジェンス強化，社会政策）に重点。
- ◆ 公共治安省を内務省に併合し、国家治安委員会（下部組織に連邦警察）に改組。
- ◆ 治安対策への軍隊投入路線を維持する一方、連邦警察に特殊部隊（ヘンダルメリア）を設立。治安情勢の不安定な地域へ派遣。
- ◆ 軍隊、連邦警察、州警察、市警察との間の連携重視。
- ◆ 犯罪被害者保護の重視。

- 
- ✓ 治安対策の組織的・機能的強化
 - ✓ 全国故意殺人件数等、一連の犯罪統計の改善
 - ✓ 犯罪組織主要人物の相次ぐ逮捕（殺害ではなく逮捕中心の点に留意）

治安状況：引き続きの懸念、但し、対応可能なリスク


引き続きの懸念

- 全体的に治安状況は改善傾向にあるが、特定地域（ゲレロ州、ミチョアカン州、タマウリパス州）で治安悪化が見られる等、治安は引き続きの懸念。
- 官憲に対する不信、捜査・起訴の非効率性等の組織的問題も存在。
 - ✓ 国立地理統計情報院（INEGI）のアンケート調査によると、2013年の犯罪被害のうち93.8%は届け出がなされておらず（米国は63%、英国は61%）、その理由として65.6%が当局に起因する理由（官憲に対する不信、手続の煩雑さ・遅さ等）を表明。

対応可能なリスク

- 日本企業の投資が集中しているバヒオ地域は、比較的良好な治安状況。
- 但し、一般犯罪（特に、車上ねらいを中心とする窃盗）に十分な警戒が必要。
- 進出日本企業の中には、治安対策のためのリソース（情報、人脈等）不足等の課題もあり。

企業支援・邦人保護＝大使館業務のトッププライオリティ

- 
- ✓ 大使館との連絡体制：在留届提出、たびレジ登録、進出日本企業実態調査等
 - ✓ メキシコ日本商工会議所（カマラ）との連携：企業間の情報共有
 - ✓ 情報収集：報道、大使館からのお知らせ
 - ✓ 治安当局（州・市警察、州検察庁）との良好な関係：人脈構築、定期的情報交換会合
 - ✓ 企業としての注意事項：従業員教育、事業所のセキュリティ（ハード、ソフト）、情報管理、危機管理
 - ✓ 個人としての注意事項：目立たない・用心を怠らない・行動を予知されない

1. 投資ラッシュ
2. 何故メキシコか？
3. 競争力の背景
4. リスク

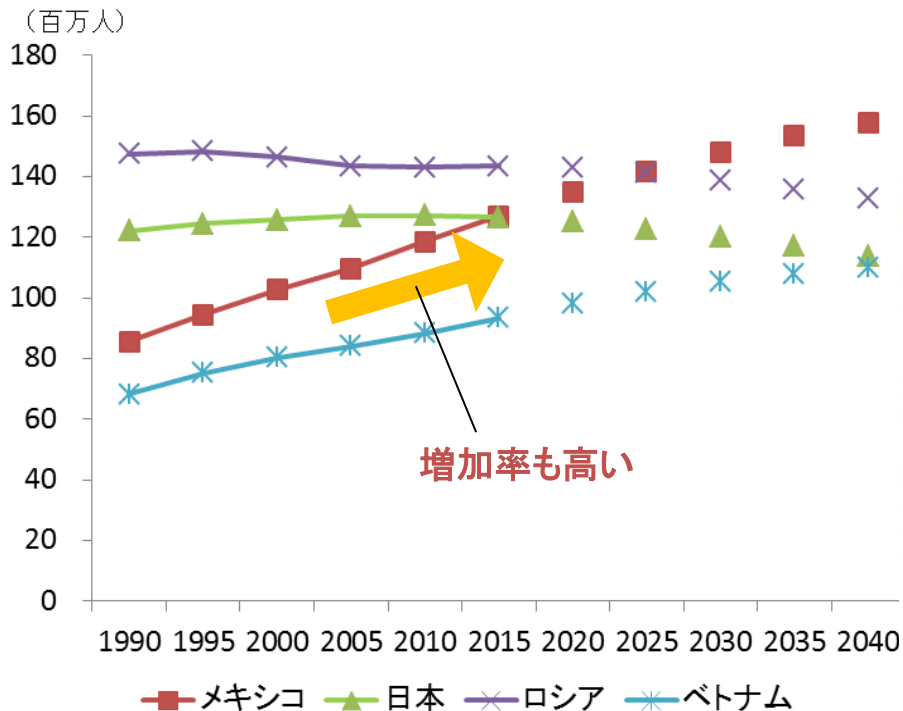
5. 潜在力、さらなる成長

6. 日本との連携

1.2億の人口、厚い若年層

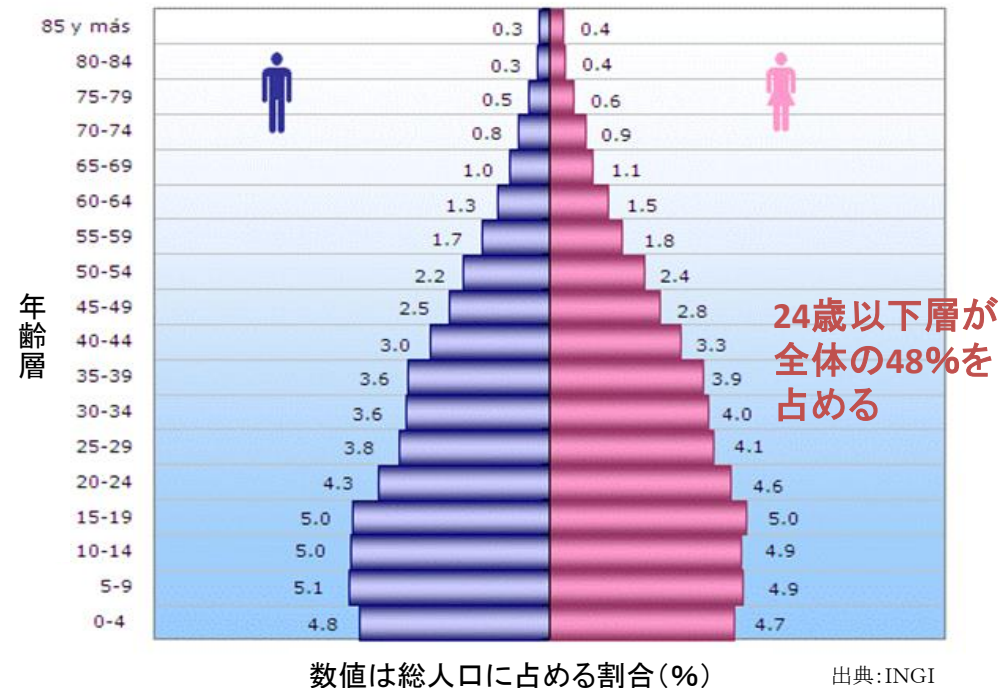
- ✓ メキシコは1億2701.7万の人口(2015年)を擁し、ロシアに次ぐ世界第10位の人口国。
- ✓ さらに人口増加率も高く、2015年に日本を上回った、2025年にはロシアを上回る見通し。
- ✓ 人口構成では若年層が厚く、24歳以下の年齢階層が全体の半数を占めており、メキシコは生産年齢人口比が増加する「人口ボーナス期」の入り口に立つ。(全人口平均年齢28歳、日本は48歳:2014年)

メキシコの人口推移・見通し



出典: 国連 世界人口推計2015 (2020年以降は中位推計)

メキシコの人口構成(2010年)



豊富な資源、強い農業

- ✓ メキシコは2011年には、石油生産量で世界8位、クウェート、イラクを凌ぐ有数の産油国。近年生産量が落ちている(2014年には11位)ことから、民間開放を実施中。
- ✓ さらに銀(同1位)、亜鉛(同7位)を産出する他、とうもろこし、食肉の生産も世界上位。

一次産品生産量の世界順位 (メキシコ及び中南米各国の位置付け)

出典: 石油/ BP統計
 鉱物/ 米地質学研究所 Minerals Yearbook
 農水産/ 国連食糧農業機関 (FAO) Yearbook
 畜産/ 米農務省 Livestock and Poultry: World Market and Trade

エネルギー(2014)		
石油		
順位	国名	シェア
1	サウジアラビア	13%
2	ロシア	13%
3	米国	12%
4	カナダ	5%
5	中国	5%
6	UAE	4%
7	イラン	4%
8	イラク	4%
9	クウェート	4%
10	ベネズエラ	3%

レアメタル(2011)		
モリブデン		
順位	国名	シェア
1	中国	38%
2	米国	26%
3	チリ	15%
4	ペルー	7%
5	メキシコ	5%
6	カナダ	3%
7	アルメニア	2%
8	ロシア	2%
9	イラン	1%
10	モンゴル	1%

リチウム		
順位	国名	シェア
1	チリ	37%
2	豪州	33%
3	中国	15%
4	アルゼンチン	9%
5	ポルトガル	2%
6	ジンバブエ	1%
7	ブラジル	0.5%

貴金属(2011)		
銀		
順位	国名	シェア
1	メキシコ	19%
2	ペルー	17%
3	中国	17%
4	豪州	8%
5	チリ	6%
6	ロシア	6%
7	ボリビア	6%
8	ポーランド	5%
9	米国	5%
10	カナダ	3%

ベースメタル(2011)		
鉄鉱石		
順位	国名	シェア
1	中国	43%
2	豪州	17%
3	ブラジル	14%
4	インド	9%
5	ロシア	4%
6	ウクライナ	3%
7	南アフリカ	2%
8	米国	2%
9	カナダ	1%
10	イラン	1%

ボーキサイト/アルミナ		
順位	国名	シェア
1	豪州	30%
2	中国	21%
3	ブラジル	14%
4	インド	9%
5	ギニア	8%
6	ジャマイカ	5%
7	ロシア	3%
8	カザフスタン	2%
9	スリナム	2%
10	ベネズエラ	2%

銅		
順位	国名	シェア
1	チリ	34%
2	ペルー	8%
3	中国	7%
4	米国	7%
5	豪州	6%
6	ザンビア	4%
7	ロシア	4%
8	インドネシア	4%
9	カナダ	3%
10	コンゴ	3%

亜鉛		
順位	国名	シェア
1	中国	31%
2	豪州	11%
3	ペルー	11%
4	インド	6%
5	米国	6%
6	カナダ	5%
7	メキシコ	5%
8	カザフスタン	4%
9	ボリビア	3%
10	アイルランド	3%

農産物(2010)		
大豆		
順位	国名	シェア
1	米国	35%
2	ブラジル	26%
3	アルゼンチン	20%
4	中国	6%
5	インド	4%
6	パラグアイ	3%
7	カナダ	2%
8	ウルグアイ	1%
9	ウクライナ	1%
10	ボリビア	1%

とうもろこし		
順位	国名	シェア
1	米国	37%
2	中国	21%
3	ブラジル	7%
4	メキシコ	3%
5	アルゼンチン	3%
6	インドネシア	2%
7	インド	2%
8	フランス	2%
9	南アフリカ	2%
10	ウクライナ	1%

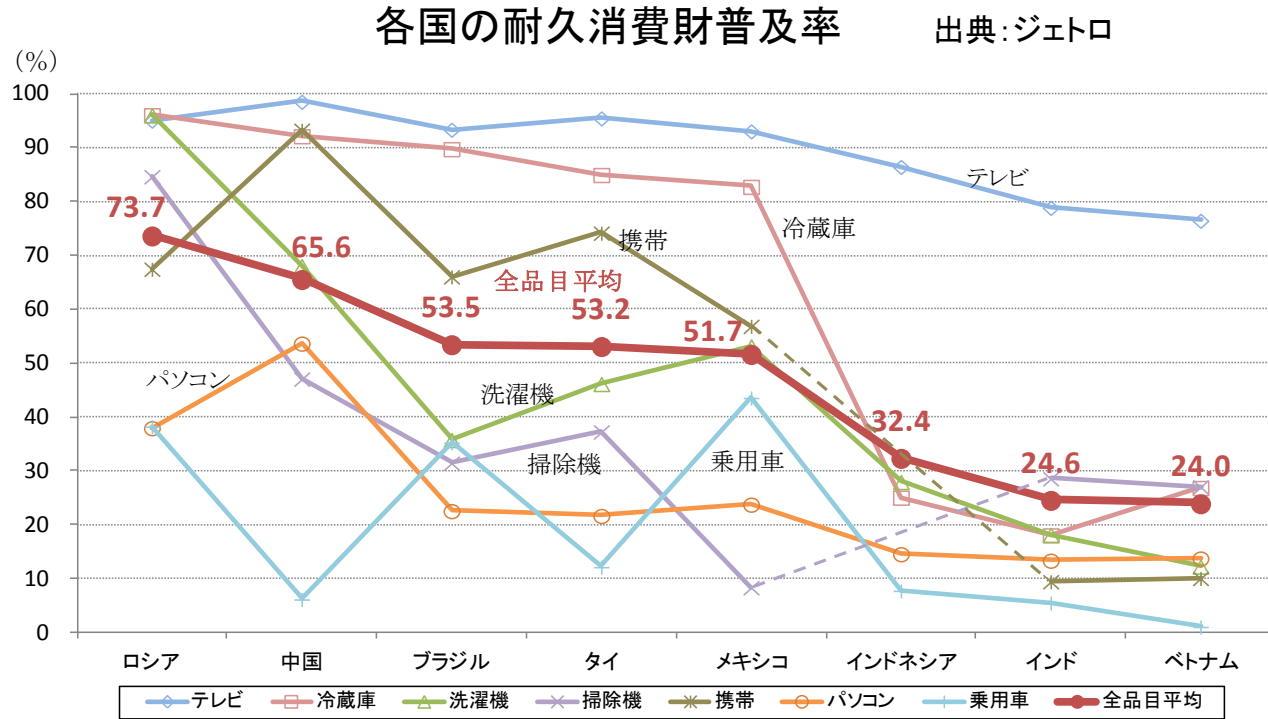
畜産物(2011)		
牛肉		
順位	国名	シェア
1	米国	21%
2	ブラジル	16%
3	EU	14%
4	中国	10%
5	インド	6%
6	アルゼンチン	4%
7	オーストラリア	4%
8	メキシコ	3%
9	パキスタン	3%
10	ロシア	2%

鶏肉		
順位	国名	シェア
1	米国	21%
2	中国	16%
3	ブラジル	16%
4	EU	12%
5	インド	4%
6	メキシコ	4%
7	ロシア	3%
8	アルゼンチン	2%
9	トルコ	2%
10	フィリピン	3%

水産物(2009)		
水産物		
順位	国名	シェア
1	中国	17%
2	ペルー	8%
3	インドネシア	6%
4	米国	5%
5	インド	5%
6	日本	4%
7	ロシア	4%
8	チリ	4%
9	ミャンマー	3%
10	フィリピン	3%

“伸び代”を残す国内消費市場

- ✓ メキシコは一人当たり名目GDPが1万ドルを超える(マレーシアと同水準)が、国内格差が大きく、耐久消費財の普及率は、むしろ一人当たりGDPが約5000ドルのタイ並みに止まる。
- ✓ 今後、格差の是正・中間層の増加に伴う、国内消費市場の拡大が見込まれる。



※メキシコは2008年、インドネシアは2009年、その他は2007年のデータ

※インドネシアの掃除機、携帯普及率は不明

メキシコの中・低所得者層が購入する商品・サービス価格の例

地下鉄(全区間固定料金)	40円 【5MXN】	タコス(1食分:2個)	160円 【20MXN】
路線バス(メトロバス)	48円 【6MXN】	SUBWAY(低価格商品)	160円 【20MXN】
近郊鉄道(12.8kmまで)	52円 【6.5MXN】	衛星TV(低価格帯・月)	1312円 【164MXN】
近郊鉄道(12.8km以上)	120円 【15MXN】	携帯端末(フリート端末)	2392円 【299MXN】

SUBWAY(サンドイッチ・チェーン)の160円商品の例



【 】内は現地通貨価格。1MXN=8円換算。

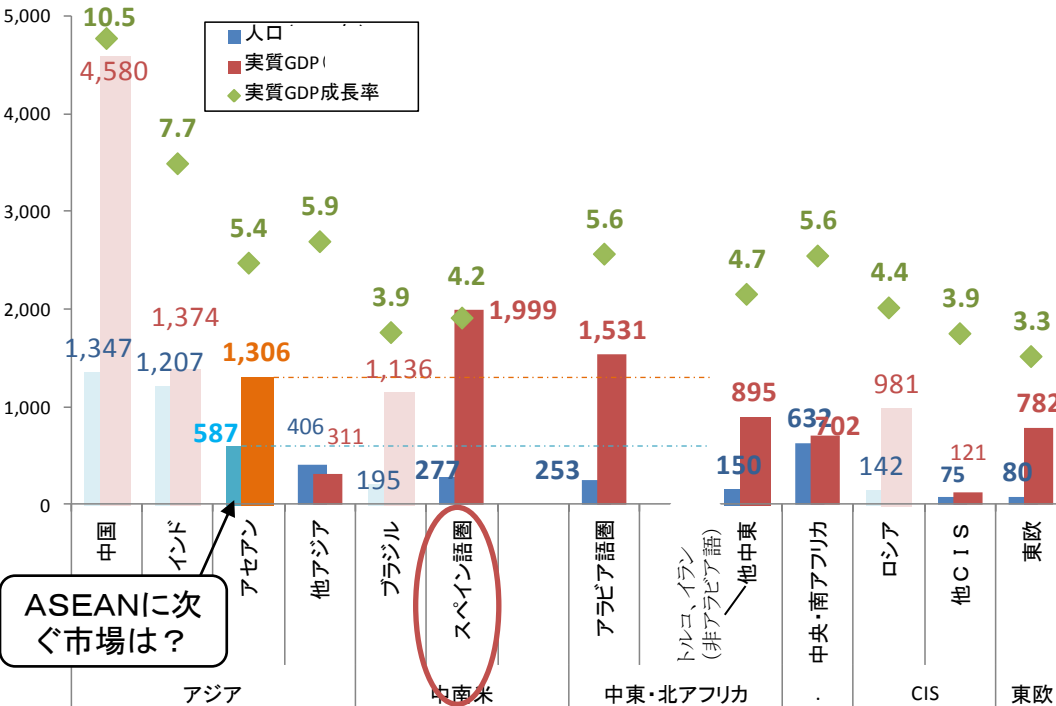
中南米経済との連携

- ✓ メキシコは経済・貿易協定網を活かして、魅力的な市場規模を持ち、今後も成長が期待される中南米経済の恩恵を最大限に享受。
- ✓ スペイン語を共通言語とする中南米経済圏では域内で複数国展開が容易という利点あり。

「中南米スペイン語経済圏」の魅力

ポイント 魅力的な経済・人口規模
GDPはASEANの1.5倍、人口2.8億人

人口(100万人)、
 実質GDP(10億米ドル)
 (2012年)



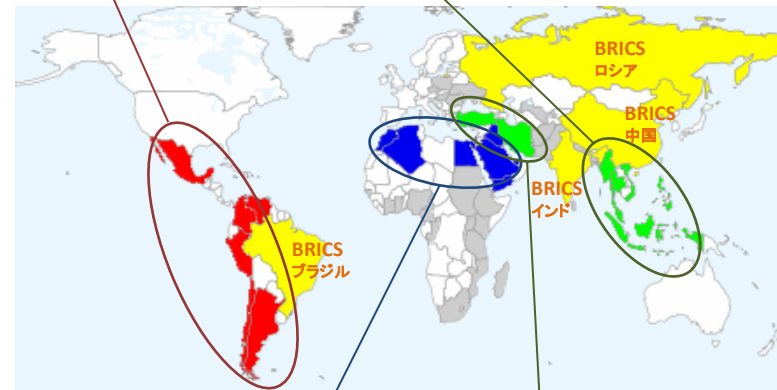
ASEANに次ぐ市場は？

比較対象地域(実質GDP1000億米ドル以上又は人口2000万人以上の国)

メキシコ、アルゼンチン、コロンビア、ベネズエラ、チリ、ペルーの6カ国(カトリック、スペイン語圏)

インドネシア、タイ、マレーシア、シンガポール、フィリピン、ベトナム、ミャンマーの7カ国(ASEANの一部※)

※一定規模の国を対象に集計。カンボジア、ラオス、ブルネイを含まない。



サウジアラビア、UAE、イスラエル※、エジプト、アルジェリア、カタール、クウェート、モロッコ、イラク、イエメンの10カ国(イスラム、アラビア語圏 ※ヘブライ語)

トルコ、イラン(イスラム、非アラビア語圏)

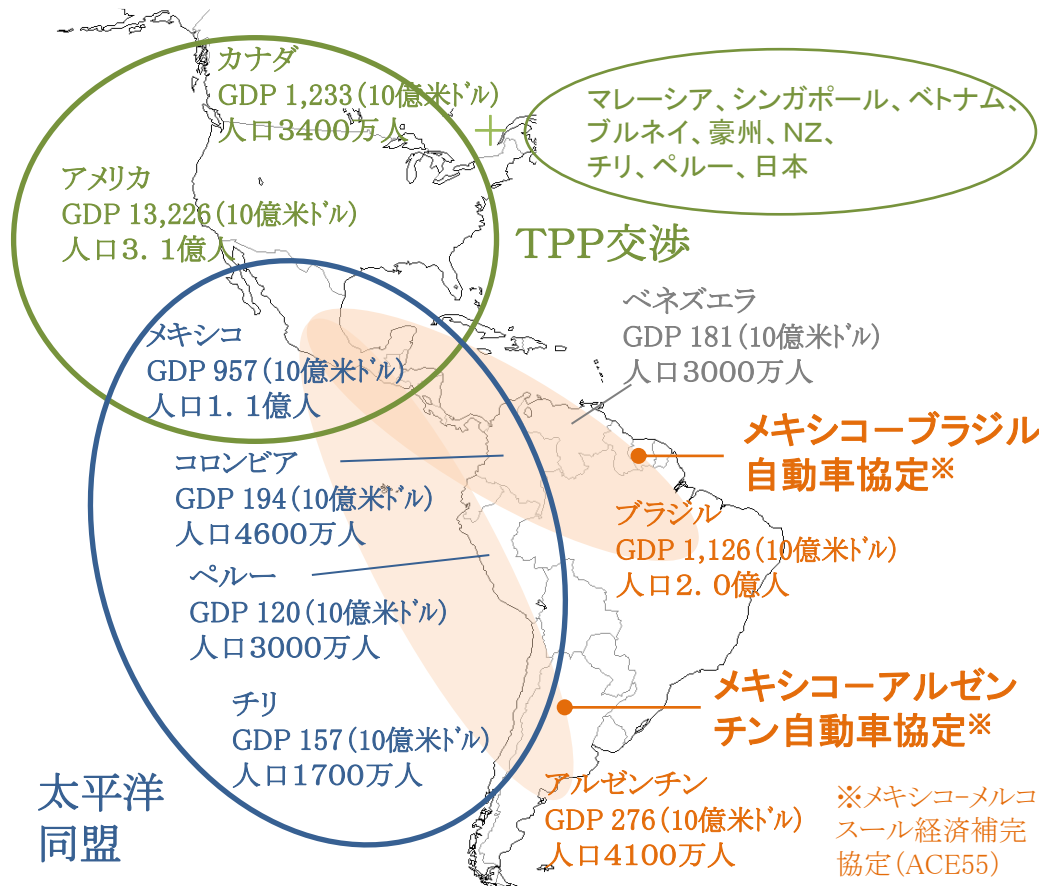
他、集計対象とした国

他アジア: パキスタン、バングラデシュ他の計5カ国
 中央・南アフリカ: 南アフリカ、ナイジェリア他の計13カ国
 他CIS: ウクライナ、ウズベキスタン
 東欧: ポーランド、チェコ、ルーマニア、ハンガリー

積極的な自由貿易政策

- ✓ メキシコはアメリカ他とはTPP交渉を進め、NAFTAの更新と、アジアへの接近を図る。
- ✓ また、コロンビア、チリ、ペルーとは太平洋同盟を締結。ASEANを上回る経済規模で、かつモノ、ヒト、サービス、資本の高いレベルの自由化を実現。
- ✓ 保護主義傾向を強めるブラジル、アルゼンチンとは、自動車協定を修正しつつ維持。

メキシコの進める経済・貿易協定交渉



各経済圏の規模、成長率の比較

太平洋同盟経済規模はASEANを上回る。

※他方ASEANは経済成長率がより高く、また6億の人口を持つことから市場の潜在性もより大きい。

加盟国数/交渉参加国数	ASEAN		太平洋同盟 ^{※1}	
	10	4		
GDP	10億米ドル	1331	1525	
(経済成長率)	%	5.4	3.4	
人口	億人	6.1	2.1	
一人当たりGDP	ドル/人	2188	7367	
自動車市場	万台	343	183	
(伸び率)	%	33.5	6.9	

※1 メキシコ、コロンビア、チリ、ペルー

※2 メキシコ、コロンビア、チリ、ペルー、アルゼンチン、ベネズエラ (ここでは中南米スペイン語圏の一定規模以上の国と定義)

※3 データは2012年

1. 投資ラッシュ
2. 何故メキシコか？
3. 競争力の背景
4. リスク
5. 潜在力、さらなる成長
- 6. 日本との連携**

中南米経済への入口

- ✓ 中南米は地理的に遠いが、先行企業の中には高シェアを獲得する例もある。

高シェア獲得の例 (メキシコ)

日産自動車(株): 新車販売シェア25%で首位。旧型サニー(現地名ツル)がベストセラー。

東洋水産(株): 即席麺市場シェア約80%程度で首位。価格は1個3ペソ(約20円)、全国各地で広く親しまれ、商品名「マルチャン」が“早く~する”の意で使われる程に浸透。

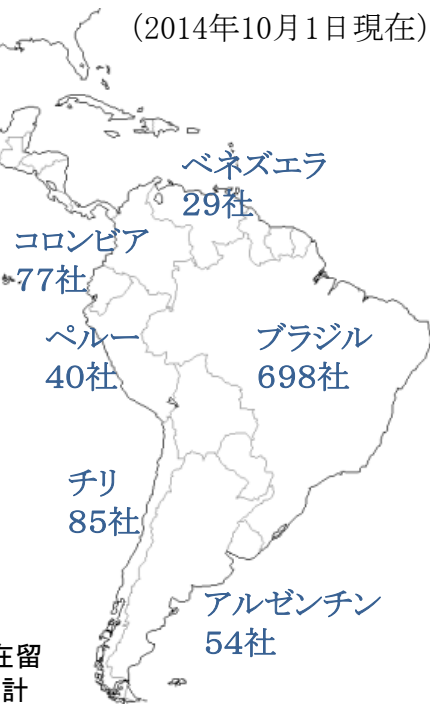
- ✓ 比較的身近*であることから、域内中、メキシコへの進出企業数が最多。
- ✓ メキシコが中南米経済への入口、さらなる展開への拠点に。

(※直行便13時間、米子会社を通じた事業展開等)

中南米主要国への進出日系企業数

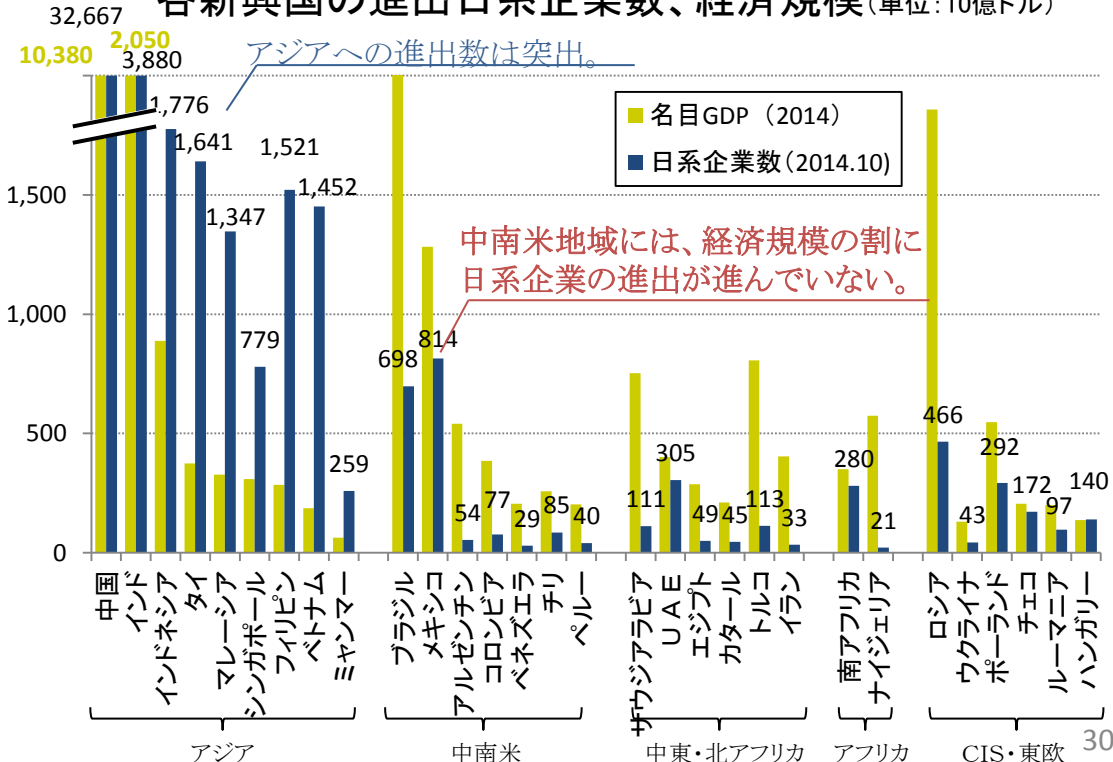
(2014年10月1日現在)

メキシコ
814社
に増加



出典: 外務省 海外在留邦人数調査統計

各新興国の進出日系企業数、経済規模 (単位: 10億ドル)



アジアへの進出数は突出。

中南米地域には、経済規模の割に日系企業の進出が進んでいない。

成長の取込み、親日国としてのメキシコ

豊富な人口・資源を有するメキシコ市場には高い成長期待。石油・鉱物等、一次産品の価格下落等の影響はあるも、改革の進展、産業の競争力等により、**メキシコ経済は中・長期的に拡大する見通し。**

一次産品下落の影響をより受ける中南米経済においても、ASEAN+インドに相当する自動車市場をはじめ、**中南米の新興市場は既に大きく立ち上がっており、引き続きポテンシャルを有する。**BRICs、アジアに続き、同地域の成長取込みにも大きな機会が存在する中で、**メキシコ経済は中南米でも特有の強み***を持ち、**ラテンアメリカ市場での事業展開においてその競争力の活用は一つの鍵**となり得る。

※労働コストが安価・安定的であることに加え、メキシコは北米経済圏の一員であり、かつラテン(中南米)の大国でもある特徴を持つ。その特有の立場を活かし、北米とはNAFTA及びTPP、中南米3カ国とは太平洋同盟、保護主義傾向を見せるブラジル・アルゼンチンとは自動車協定、と多方面の自由で開かれた通商政策を展開し、米州製造拠点としての地位を高めている。

日本とメキシコの強みは異なり、メキシコは低コストの労働力、地理的優位性等を有する一方で、高品質部品・部材の輸入や先端技術開発等では日本への依存傾向が強い。 **両国の相互の補完関係はラテンアメリカ市場における競争優位に繋がる**可能性があり、日墨EPA、太平洋同盟等を通じた両国の連携強化は、この観点からも意義を有する。

さらに**メキシコは日本と長い歴史を持つ親日国。**日本食の人気の高まっている他、伝統文化からポップカルチャーに至るまで、日本文化への関心は高く、日本及び日本人の「評判」は良い。また、豊かな食文化、多彩な音楽・工芸文化等を持ち、著名なリゾート地や世界遺産を擁する観光大国でもあり、多様な楽しみと、親しみ易さを持つ。経済面のみならず政治、文化、学術、観光など幅広い分野での日メキシコ官の交流が益々活発化している。